

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970100174		
法人名	株式会社シティ・プランナー		
事業所名	フレンドニヶ辻		
所在地	奈良県奈良市尼辻西町8-10		
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年リフォームを行い開放的なゆとりのあるリビングが出来上がりました。入居者の方々がその人らしくゆっくり穏やかに生活出来る 入居者の方々がその人らしくゆっくり穏やかに生活できるように生活リハビリを意識したきめ細かいサービスが出来るように努めています。家族の方々と夏祭り・運営推進会議を通じて関係を深めケアに生かしています。入居者の方々も一緒に自治会の行事に参加し、地域の方々との交流を深めています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、ウェルグループとして、奈良県内を中心にグループホームを始めとしたたくさんの医療・介護事業所を展開している法人の傘下にある。ウェルグループの主催する音楽祭や職員研修にも参加し、総合力を活かしている。運営されている事業所間での職員の転勤異動もあり、マンネリ化を抑え常に新鮮な気持ちで仕事出来るように配慮されている。事業所は最寄駅に隣接した住宅地にあるアットホームな木造の民家であり、周りの住民と散歩や清掃活動でふれあう機会も多く、利用者とも親しい関係が出来て、地域の中に溶け込んでいる。地域の活動に利用者も参加し地域との連携を深め、という事業所理念を、正しく実践している成果の表れと言える。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3F		
訪問調査日	平成24年11月21日		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に運営理念を掲げいつも目につくようにしている。職員会議等でこの理念のもと常に意識の統一を図り日々の介護で実践している。	運営法人の理念である「自分らしく安心できる生活のお手伝い、尊厳を守る、地域との連携」を基本とし、地域活動に入居者と一緒に参加して地域との連携を深めることを事業所の今年度の目標としている。職員は毎月の会議で確認し実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に入居者の方々も一緒に参加させていただき交流を図っている。グループホームの夏祭り・避難訓練などに参加していただきグループホームの活動や意義を理解してもらっている。	自治会に入り公民館行事にも参加している。夏祭りや運営推進会議などには自治会側からの協力を仰いでいる。利用者も散歩時の挨拶、近隣のお店を利用したり、ラジオ体操や清掃活動に参加することで、近所の顔馴染みの方々も出来ている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い取り組んでいる。ボランティアの方が来るときなど地域の方々にも参加していただいている。近隣の中学校から体験学習にきている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとの開催を通じ自治会長様・地域住民の方も参加していただいている。家族の方々もほとんど毎回参加されるようになってきた。	外部から自治会、地域包括支援センター、利用者家族などにも出席してもらい、2ヶ月に1回開催している。事業所サービスの現状や行事の報告から今後の予定などを伝えて、意見交換をしている。出席出来ない職員には会議議事録で報告されている。	自己評価作業には出来るだけ多くの職員に関わってもらい、事業所総力でまとめることにより、提供しているサービスの現状を把握し、外部評価結果を運営推進会議に取り上げ、話し合いサービスの質の向上に繋げていくことを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	奈良市にはグループホームの現状を報告したり指導をしてもらっている。また奈良市保課で受給の方を市と連絡を取って受け入れている。	月1回は市の担当者が事業所を訪問している。事業所からも適宜市を訪ねて、常に報告相談しながら進めている。市内の中学生が高齢化社会の理解を深めるため、事業所で利用者の方々とはふれあう、福祉体験をする活動にも協力している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が身体拘束について周知しており、拘束のない暮らしを実践している。	事業所が駅に近いので、夜間だけは玄関に施設している。施設時も外に出たい利用者には、職員が見守り外出している。事業所は「拘束ゼロ」をうたい毎月の職員会議でも、拘束を行わないでケアすることの意義の理解を徹底して、実践に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は外部研修を通じて学びその内容を職員に説明・教育している。事業所中で虐待行為をしたことはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は外部研修を通じて学びその内容を職員に説明・教育している。まだ適用者はいない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書・利用契約書を文書で説明している。説明にあたっては一方的にならないように理解だけたか、疑問点はないかを確認しながら行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の思いは日々のコミュニケーションの中で聞くようにしている。それらをスタッフ会議で話し合い入居者の思いにこたえるようにしている。ケアカンファレンスや来訪時には必ず面談をし意見をきく機会を設けている。	利用者の思いは日々の生活の場で、家族からは来所した折に聴き出すよう努めている。家族とは電話や書面でのやりとりもしている。事業所の改築に伴い利用者の居室の改修についても意見を聞いている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の対応・会話を通じて苦情・不満などをくみ取るようにしている。職員の意見や要望を聞いたり会議の中で話し合ったりしている。	毎月、全員参加の職員会議を開催している。職員には日々の実務のなかで、個々に事業所目標を持たせ、年に3回面談もしており、職員の思いを聴く機会は多い。職員の提案で、ケアプランに新たなシートを加えることで、家族にケアの流れが分かり易くなった例もある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員相互の親睦を図るよう定期的に親睦会を開いている。マネージャーや事務長が職員の業務上の相談にあたりストレスの解消を図っている。毎日が勉強であるが困難な事例には的確なアドバイスをできる人材がいる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・中段階研修・サブリーダー研修・リーダー研修を順次行っている。また、認知症介護実践研修・管理者研修・リーダー研修等を計画的に受けさせている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者はグループホーム運営協議会を立ち上げ情報交換・勉強会の場を設定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に関しての問い合わせがあったときや、初期面談時には利用勧誘を前面に推し進めるのではなく、本人の困っていること、不安なことをよく聞くよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に関しての問い合わせがあったときや、初期面談時には利用勧誘を前面に推し進めるのではなく、家族の困っていること、不安なことをよく聞くよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所に相談があるときの殆どはグループホーム利用が前提であるが、本当にグループホームでよいのか、一歩引いてみるように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、洗濯物の片付けを助けてもらったり、植物の水やりを助けてもらったりしている。また、植物の育て方折り紙のおりかた、食事のメニューなど教えてもらうように図っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の連絡はもとより、1カ月に1回はスタッフからの一言通信(ご様子をまとめたもの)・写真・フレンド便りを送付し、関係の維持向上に努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年末年始やお盆に家族と過ごす希望者には、薬や健康状態を説明し、支援している。また、車等で希望場所への観光に出かけている。	友人知人を訪ねたり、家族と一緒に墓参り、法事、お見舞いに出掛け、入居前からの編み物教室に通っている方もいる。親類や友の訪問もある。散髪や美容院も、一人ひとり馴染みの店に出掛けたり、教え子と手紙のやり取りをする等、出来るだけ本人が満足するような支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者同士が仲間として意識を持つように支援している。その結果、不意な立ち上がりなど危険を察知したとき、職員に知らせてもらったり、車いすを押してもらったりしている。		
22		関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院が見込まれ退所された方もあるが、定期的に見舞いに伺った事例がある。特養などの他の介護保険施設に移られた場合も顔を見に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアに向けてパーソンセンタードケアの理解をスタッフに指導し、入居者のニーズを把握し、スタッフ間での情報共有を通じてケアに生かしている。	利用者の状態の変化や思いが汲み取りにくい時は、パーソン・センタード・ケア方式を用い利用者の個々の思いなどを職員会議で話し合いながら、把握に努めている。利用者が喫茶店のモーニングサービスに出かけたいというお話から皆で喫茶店に出かける等、常に本人の思いに沿ったケアを第一にしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを作成して、生活歴・趣味・好みを把握している。		
25		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々の方の過ごし方や心身状態を職員が把握し連絡を取り合っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から入居者の意見を聞き家族カンファレンスを行っている。それに加えて職員が意見やアイデアを出しあって介護計画を作成している。	6ヶ月毎に、本人と家族には電話で、事前に要望を聴き、仮介護計画を作成し、面談して確認の後、更新している。言い出しにくいことも配慮して別に要望を書いて頂く書面を渡し、常に意見を聴けるようにしている。利用者に変化があれば、臨機応変に介護計画の見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施期間を明示し期間終了時に見直しをしている。状態変化時には随時の見直しもしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに応じて家族と相談し家族のかわりに通院介助や受診の便宜を計っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	管理者が利用者全体の必要性を考慮して、相手先を都度取捨選択しているボランティアのレク応援である。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	精神科眼科等の受診が必要になった場合も家族に連絡を取り希望があれば受診するようにしている。	今迄の馴染みの医師をかかりつけ医として望む場合は、そのまま継続されている。事業所の内科協力医による往診は月2回あり全員受診している。精神科や眼科、歯科などの受診に家族が同行出来ない時には、職員が代行支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の定期訪問と24時間の連携体制により利用者・職員は安心して相談できる往診医とも密接に連携がとれている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族を交えて病院の担当者と現状や予後話し合い早期の退院を図っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	適応者はまだいないが他ホームでの実例経験をマネージャーが有しており必要時には対応できる体制になっている。訪問看護の体制も整っている。	現事業所の態勢では、看取りまでの支援は難しいと考えている。入居時に、重度化を迎えた場合には、外部の最適な関係機関へ紹介、移転していただく対応指針について、同意書を取り交わしている。今後は看取りについても医療を伴わない条件のもと家族と相談しながら進めていこうと考えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し職員に周知徹底している。看護師による応急手当の指導を全職員が受けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練計画を作成し定期的に訓練を行っている。年2回の避難訓練には消防隊員・地域の方々にも参加して頂き災害を想定した協力体制に努めている。	ハード面では、木造の建物が、耐震補強と同時に間とりも改造され、スプリンクラーが完備された。自治会や消防署も参加した避難訓練は、年2回実施されている。消防署への緊急通報設備や消火器も設置出来ている。食料品の備蓄もある。	災害で、もし事業所から避難所などに移った場合、混乱が想定されるので、家族が利用者と緊密な連絡が取れるよう、事前に連絡手段や避難場所を取り決めて共有しておくことが望ましいと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人の個性・人格を尊重した言葉をかけ対応をし入居者に共感するようにしている。	家族から届く利用者の情報は、ケア会議で確認し、申し送りノートにも記録して、職員が共有出来るようにしている。利用者の尊厳を守ろうと職員の意識も高い。リハビリパンツなどを渡す時にも、他の人に気づかれない様に細心の注意を払っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の選択・献立の希望やレクリエーション内容、外出の希望等を聞きながら進めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務時間は後で取り戻せるとの共通認識から、入居者優先として入居者のペースに合わせてしている。入居者個々のライフスタイルで過ごしてもらえるよう自室でおられる時間帯は部屋の外から見守りを行ったりしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の希望による髪型や服装にしているがいつもおなじにならないように声掛け支援している。パーマ希望の入居者には家族と連絡を取り合って美容院の利用を支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は入居者の好みに合うもののあるものになっている。季節感も重視し、また昔ながらの行事食のある食事内容や個人の誕生日祝いの食事もしている。食事の準備や片付けも職員と一緒にしてもらっている。	自立した利用者が多いので、近くのスーパーへ食材の買い物、調理、後片づけなどを一緒に行っている。お月見団子も皆で手作りし、正月や節分には季節の行事に合した食事も準備され、楽しんでいる。事業所の庭の畑で、利用者も育てた野菜を食材にすることもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取カロリー必要水分量栄養バランスをおおよそ把握している。食べ残されたために不足の場合は代替りのもので補っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き誘導と必要な方には介助を行っている。痛みや治療が必要な場合には家族に連絡を取って受診の支援をしている。入歯は夜間消毒液につけて保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄表を作り、昼夜のトイレ誘導を行ってできるだけトイレでの排泄を促している。トイレ誘導介助はさりげなく行っている。特に失禁時には周囲の方々にも気を配り声掛けに考慮し、さりげなく誘導している。	現在は、リハビリパンツとパッドだけを使用しており、オムツの人はいない。各人の排泄表から、さりげないトイレ誘導を心掛けている。失禁する利用者もいるので、本人のプライドを傷つけないよう、周りに細心の対応をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい入居者が多いので果物・野菜の多い食事している。定時にトイレに誘導している。できる方は散歩と運動を毎日している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく2日に1回のペースでゆっくり入浴して頂けるようにしている。プライバシーに配慮しコミュニケーションを楽しみながらゆっくりリラックスして入れるようにしている。	利用者には、2日に1回の入浴日を決めているが、入りたい方は、毎日でも入浴は出来る。夕方前の午後3時頃から入浴する方が多い。改築により屋内になった新しい浴槽で、ゆっくりと1人ずつ入浴出来るようになっている。入浴を拒む方はいない。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩・掃除・食事作り・体操・レクリエーションなど日中の活動を通じて個々にあった生活のリズムを作るように配慮している。必要ときには職員が個室に付き添いゆっくり話しながら休憩してもらう。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容の勉強をしている。薬剤師や家族から説明を受けた内容を個別に記録し医師の指示通りに服薬してもらうようにしている。症状の変化があれば記録し医師にも伝えている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯の取り入れ、食事の手伝い、買い物などは能力に応じて役割分担している。裁縫の好きな人、食事の好きな人、手作業の好きな人に材料を用意し支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日の散歩や希望者にはスーパーへの買い物にかけている。	毎日の散歩、地域の清掃活動、近くのスーパーへの買い物や外食と、出掛ける機会が多い。運営法人主催の音楽会へ、家族と共に参加する機会もある。季節には、車イス利用の方も同伴して、全員で花見や紅葉を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を所持している人には支払い時には職員がお手伝いを一緒に管理している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛ける希望には呼び出しをして受話器を渡しているかかってきた場合には受話器を手渡してゆっくり話してもらっている。季節の便り・行事の案内状を皆で手作りをして家族に郵送している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的なリビングで自由に過ごせるようにソファ・椅子をおいて気の合った方々で楽しく過ごされている。また季節の花を飾り装飾品も手作りしている。家具備品は全て家庭用でそろえている。	事業所の建物の改築で居室の位置変更や食堂と居間をひとつにする大幅なリフォームを行ったので、明るく広々とした空間となり、部屋全体が見渡せるようになった。同時に床の段差も少なくなり、利用者は歩き易く活動的になって、室内での行動範囲が広がっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家庭的なリビングで気の合った方々で楽しく過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・鏡台・椅子・植木・装飾品を持ち込まれ自室として安心されている。	居室が畳から木製床にリフォームされた。各室にスプリンクラーも設置され、安全性も高まった。ベッドやタンスなどの生活家具以外、利用者が自分で創った作品や家族との写真や手紙などを飾り、利用者各人の思いを大事している。	奥まったところに既存の居室があり換気等には気を配られることが望まれる。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に滑り止めや手すりを設置したりして入居者の状態に合わせるよう工夫している。		